

さいたま市立大原中学校 学校だより



新しき光



さいたま市立大原中学校

TEL 048-831-5397 FAX 048-835-1357

WEB <https://ohara-j.saitama-city.ed.jp/>

第7号

校訓「歴史を拓く」 学校教育目標「はつらつとした生徒、地域に輝く学校」

令和7年10月31日発行

虹の足

校長 越智 宏明

10月は、新人体育大会に合唱コンクール、駅伝競走大会と、大きな行事が目白押しで、生徒も大忙しの1か月となったのではないのでしょうか？

新人体育大会では、どの会場に応援に行っても、大原中生たちの元気な声援とガッツ溢れるプレーに心を打たれました。合唱コンクールでは、本番はもちろんです、そこに至る毎日の学級練習の段階でどのクラスも気合が十分で、校舎中に歌声が響き渡っていたことが印象的でした。駅伝競走大会では、残念ながら男女とも県大会出場の目的は果たせませんでした、選手とサポートメンバーが心をつなげて、それぞれにできる「精一杯」を見せてくれました。本当に生徒の誰もが頑張った10月でした。

今、3年生全生徒の面接練習を行っています。その中で必ず、「大原中学校の自慢は何ですか？」という質問をしますが、多くの生徒が「男女の仲がよい」「生徒が皆明るくて元気」「信頼できる先生がたくさんいる」と答えてくれます。生徒にとっては、「大原中はいつもこんなものだ」と当たり前前に思っている発言なのでしょうが、こうしたことを当たり前前に思っていること、更に言えば「当たり前前の状況にしている」と自体がすごいことなのではないかということに気付いてもらいたいと思っています。来年の4月に入学する新入生たちは、在校生の皆さんがこの2年間、アイディアを出し合い検討し合った新制服を着て登校してきます。今後何十年も続くであろう大原中学校の伝統のその最初の部分を生徒自身の手で創り上げたなどという話、他の人が聞いたら、なかなか信じてもらえないかもしれませんね…。



10月6日に放映されたフジテレビ系バラエティ番組「けるとめる」の撮影終了後、浦和レッズの選手たちと全校生徒で記念撮影

2年生国語の教科書に、吉野弘氏の「虹の足」という詩が載っています。

雨があがって 雲間から 乾麺みたいに真直な陽射しが たくさん地上に刺さり
行手に榛名山が見えたころ 山路を登るバスの中で見たのだ、虹の足を。
眼下にひろがる田圃の上に 虹がそっと足を下ろしたのを！
野面にすりと足を置いて 虹のアーチが軽やかに すくくと空に立ったのを！
その虹の足の底に 小さな村といくつかの家が すっぽり抱かれて染められていたのだ。
それなのに 家から飛び出して虹の足にさわろうとする人影は見えない。
———おい、君の家が虹の中にあるぞ
乗客たちは頬を火照らせ 野面に立った虹の足に見とれた。
多分、あれはバスの中の僕らには見えて 村の人々には見えないのだ。
そんなこともあるのだろう 他人には見えて 自分には見えない幸福の中で 格別驚きもせず
幸福に生きていることが——。

10月6日、本校の生徒たちと浦和レッズの選手たちが協力してサッカーボールをゴールまでつなぐという挑戦が、フジテレビ系のバラエティ番組「けるとめる」で放映され、全国から大きな反響が寄せられました。番組を視聴した方たちのコメントを読むと、「浦和レッズのみなさまと大原中の生徒さんと職員のみなさま最高」「選手だけでなく、中学校の先生や生徒さん皆で作上げた最高企画！見応えありすぎた！」「一体感すごかったなあ 生徒さんたちのまっすぐな目が素敵でキラキラしていて…」「大原中の制服は生徒さんがデザインしてるの？すごー」「大原中にかよいたい！」といった好意的なもので溢れていました。

番組の収録に当たって、生徒は特に何かを意識した訳ではなく、ただいつもどおり素の自分を出していたと思います。しかし、大原中学校ではない、外の人たちから見ると、生徒の表情、明るさ、お互いを盛り上げる一体感、自分たちが制服をデザインするという発想の全てが眩しく、うらやましく映ったのではないのでしょうか？

今、大原中学校は、吉野氏の詩で表現されている「虹の足の底」にいるのだと思います。自分たちが今、どれだけ大きな成果を挙げていて、輝いているか、それが良い意味で「当たり前前の日常」になっている生徒の皆さんに、今あなたは物凄く輝いていますよ、と呼び掛けてあげたい気持ちでいっぱいです。